

母の 662 ひろば

doshinsha / haha no hiroba

ことばのなかのこどもたち②／今井和子 2
わたしの原風景⑨／石津ちひろ 3
『ちっちゃい こえ』に耳をすませて
—アーサー・ピナードが いま《原爆の図》をよむ 4
新刊紹介／嶋田泰子 7

イラスト／あずみ虫



負けず嫌いの心を育てる

山 極 寿 一

アフリカで長らくゴリラの研究を続けてきて、未だに不思議に思っていることがある。それは、ゴリラの子どもがとても負けず嫌いということだ。ゴリラの赤ちゃんはとても小さく、2キログラムにも満たない。とてもひ弱で、1年間はお母さんの腕から離れない。乳離れも遅く、1歳を過ぎた頃からやっとお乳以外の物を口に入れ始めるのだが、完全に離乳するのは3歳を過ぎてからだ。それなのに、離乳するや否や母親から自立し、堂々と自己主張を始める。

逆説的だが、きっとそれは乳児の間にしっかりとケアされているからではないかと思う。常にお母さんに抱かれているから、お母さんを通して世界を受け入れることができ、自分が世界から歓迎されているという自信を抱くことができる。そして、乳離れが始まるとお母さんの最も信頼する父親の下に預けられ、そこで他の子どもたちと付き合うようになる。お父さんの背中の白いシルバーバックはとても優しく、子どもたちを分け隔てなく育てる。子どもたちがけんかをしたら、決してえこひいきをすることなく、けんかそのものをしっかり止める。巨大な体で外敵に立ち向かい、子どもたちを守る。子どもたちはシルバーバックのそばで安心して、自分の興味の赴くままに探索する世界を広げることができる。それが子どもたちの自立を助けるのだ。

一方、人間の赤ちゃんはゴリラよりひ弱なくせに体重が重い。だからお母さんが抱き続けることができず、誰かに預けるか、どこかに置かざるを得ない。お母さんから離れた赤ちゃんはけたたましく泣いて救いを求める。それを泣き止ませようと周囲は躍起となる。4、5年に1度しか子どもを産まないゴリラと違って、年子も産める人間は多産だ。それは授乳期間の短縮によってもたらされた。だから、赤ちゃんは早く離乳し、下の子がすぐに生まれてしまう。多産で、共同保育によってたくさん子どもを育ててきたことが、ここまで人間を繁栄させることにつながったのである。

しかし、お母さんの手から離されることで、この世界をうまく受け入れられず、子どもが自分に自信を持てなくなることもある。小さいころから様々な人の手に渡って抱かれることが人間の子どもの利点でもあるのだが、それが子どもに不安を与えてはいないだろうか。離乳後にお母さんの信頼する保護者に見守られて、子どもたちと対等に付き合う環境が保証されているかどうか、気になる所である。ゴリラに学ぶべき点は多い。 (やまぎわ じゅいち／人類学・霊長類学者)

ことばの

なかの

2

今井和子

いまい かずこ／子どもことば研究会代表。二十三年間の保育士勤務ののち、立教女学院短期大学教授などを歴任。
主な著作に『0歳児から5歳児―行動の意味とその対応』(小学館)、『子どもことばの世界』(ミネルヴァ書房) などがある。

こどもたち

●あゆみちゃん(二歳十カ月) おかわりをしようとテーブルの真ん中に盛られたお肉を指さして……

「おにくたち、ちようだい」

保育者がひと切れとってあゆみちゃんのお皿にのせると、怒って……

「ちがう、おにくたち」

そこであつた切れとってお皿にのせると「そう、そう」と納得しました。

誤りの中にある真実

お兄ちゃんが二人いる末っ子のあゆみちゃん。いつも家庭で母親から「子どもたち、ご飯だから早くいりっしやい」などといわれていたようです。「たち」と言うことばは一人のときではなく、子どもたちみんな、即ち、複数の概念を表しているものだということはわかっていたようです。それをまさか「おにくたち」と使ってくれるとは……ほんとうに愉快でした。

このあゆみちゃん、ディズニールランドに行った翌日、

「せんせ、あゆみちゃん、

ネズミールランド行ってきたんだあ」

と嬉しそうに話してくれました。ことばの使い方は確かに誤っていますが、端的に「真実を語っている」と感心してしまいました。

わたしの原風景

9

石津ちひろ

いしづちひろ／絵本作家・詩人



イラスト／石川えりこ

昭和三十年代の、愛媛での話である。わたしが小学一年生のとき、父親がとつぜん、家の敷地内に映画館を建てた。家族にいつかい相談もせずに、副業で映画館をやり始めたのだ。ただ映画が好きという、それだけの理由で。

姉二人は、さほど映画にのめりこむことはなかった。幼かった弟とわたしの二人だけが、それぞれ、ほぼ毎日のように映画館に足を運ぶようになった。重い扉を押し、分厚いカーテンを開き、劇場の薄暗がりの中に入っていくときに覚えるなんとも言えない感覚を、いまでも忘れることができない。扉の向こうではいつだって、日常から遠く隔たった夢の世界が待っていてくれるのだ。

この感覚は何かと似ている……と思っていたのだが、はたと気がついた。翻訳を依頼されて初めて絵本の原書を開くとき、映画館の重い扉を押していたときと同様の高揚感を、いつも覚えるのだ。

それにしても、わが家の劇場で観た映画の数々を思い出すと、そのラインナップの豪華さに、思わず目が眩みそうになってくる。そう、わたしはそこで、『羅生門』『生きる』『天国と地獄』『赤ひげ』などの黒澤映画に出会い、『若草物語』『禁じられた遊び』『ローマの休日』といった洋画の名作とも巡り合ったのである。

『生きる』を観ながら、九歳のわたしは人生の悲哀を幼くして感じ取った。そして、『禁じられた遊び』を繰り返し観るうちに、フランス語の響きの美しさに魅了され、将来はフランス語を勉強してみたいと願うようになったのだ。

なお、わたしには、回文やアナグラムを（文字に書かないで）頭の中だけで作れるという、あまり役に立たない特技がある。この特技が培われたのは、小学生の頃に映画の字幕をたくさん見ていたからではないか、と主張する人があるのだが、はたしてどうなのだろう？

いずれにしても、父親の気まぐれがなければ、わたしはいまだに夢の世界の扉を開くようごびを、知らないままでいたかもしれない。

アーサー・ビナードさんの新作紙芝居『ちっちゃいこえ』の刊行記念イベントが「原爆の図丸木美術館」にて行われました。ビナードさんご自身による実演のあと、本作のデザインを手がけた谷口広樹さん、丸木ひさ子さん、岡村幸宣さんが登壇し、トークが行われました。

なぜ、いま紙芝居か―《原爆の図》と紙芝居の共通項

岡村（以下、岡） そもそもアーサーさんが、なぜ《原爆の図》【註1】を紙芝居にしようと思ったのか、まずはそこからお話しただろうと思います。

アーサー（以下、ア） 初めて《原爆の図》を見たときに、それまでの美術鑑賞とは違う現象が自分の中で起きていると感じました。自分はいま美術作品を鑑賞しているのではなくて、作品に巻き込まれているのではないかと。《原爆の図》は、絵画ではあるけれど、同時に見る人を、傍観者から当事者へと引き込む装置なのではないか。

これと似た経験をしたことがありました。二十二歳のときに日本に来て、初めて紙芝居を見たことです。木箱のような舞台に吸い込まれていった。静かに絵本のページをめくるのではなく、集

『ちっちゃいこえ』に耳をすませて アーサー・ビナードがいま《原爆の図》をよむ



丸木 ひさ子
絵本作家・丸木俊の姪

谷口 広樹
美術家・デザイナー

岡村 幸宣
原爆の図丸木
美術館学芸員

アーサー・ビナード
詩人

団で巻き込まれていく。この二つの体験が、ずっと後になって、繋がった。それが『ちっちゃいこえ』を作り始めたきっかけです。

岡 その点は非常に興味深いですね。「芸術鑑賞ではない絵画」というのは《原爆の図》の本質的なところだと思います。《原爆の図》は一九五〇年から制作が始まりましたが、当時の日本は連合国軍占領下。原爆の写真を見せてはいけない、という時代でした。当事者として感じることを奪われていた人たちを、どうやって当事者として巻き込んでいくかということ、丸木夫妻はやろうとしていたのです。

丸木夫妻が五〇年代にやっていた「《原爆の図》全国巡回展【註2】」を、大きな紙芝居と捉えることもできますね。

ア そう、掘り下げれば掘り下げるほど、本質的に《原爆の図》と紙芝居は近い。掛け軸にして持ち運んで全国を回っている《原爆の図》は、街頭紙芝居が抱えているゲリラ性と近いものがある。

岡 《原爆の図》は、かつては木箱に入って保管されていました。原爆投下から七十年が過ぎたいま、アーサーさんがまた違う木箱に入れて、《原爆の図》を全国に届けていこうとしているのは非常に面白いことだと思います。

【註1】《原爆の図》：広島出身の水墨画家の丸木位里（1901年-1995年）と、油彩画家の丸木俊（赤松俊子、1912年-2000年）夫妻による共同制作作品。原爆投下後の広島の様状を描いた。1950年に〈第一部・幽霊〉を発表。1982年までの32年間に、15部の連作で「原爆」を描き続けた。埼玉県東松山市にある「原爆の図丸木美術館」では、四曲一双の屏風（縦1.8メートル、横7.2メートル）に仕立てられた1部から14部を常設展示している。

紙芝居の制作―《原爆の図》を修復する

岡 さて、共通性とはまた別に大画面の絵である《原爆の図》と紙芝居の絵との違いにも気がついていくわけですよ。

ア そうですね。例えばこの猫の絵。屏風の切れ目によって、絵が切れています。これをどうするか、という問題が最初にありました。まず絵の修復を、谷口広樹さんにお願ひしたのです。

谷口 (以下、谷) 使いたい絵を修復するというのが当初の僕の仕事でした。《原爆の図》の絵を全体で見たときには、屏風の切れ目は全く気にならない。でも切り取って紙芝居の絵にしてみると、どうしても気になってくる。どうやってこの失われてしまった部分を再現するのかというのが、最初の難題でした。

岡 著作権者である丸木ひさ予さんは、修復された絵を見てどう思いましたか。

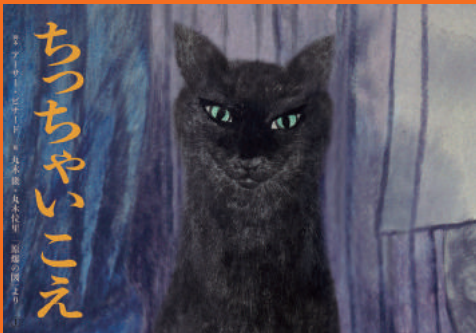
ひさ予 (以下、ひ) 絵を見てどうこうというよりも、私はそもそもこの仕事に對して、著作権者としてOKを出しました。それはアーサーさんの目指していること、丸木位里・俊がやろうとしていることが同じだったからです。二〇〇〇年に俊が死んで、時間が経つにつれて、《原爆の図》の可能性を狭めてはいけな

いと思うようになりました。絵についてですが、屏風にした過程で仕方なくなってしまう部分を、お医者さんに直していただいたような感覚です。

谷 しかし、ただ修復と言っても簡単な仕事ではありませんでした。この仕事で三十年ぶりに「お前、デッサンできんの？」と突きつけられましたね。デッサン力想像力だということに改めて気づかされました。

ア そのうち、紙芝居の絵として強くなるために、試作を重ねながら、絵を反転させたり色を変えたりという工夫をしました。

岡 途中段階ですが、顔をいじり出したときには「これはどうなっていくのだろう」と少し心配になりました。



『ちっちゃいこえ』(本体2,700円+税/16場面)
脚本/アーサー・ピナード
絵/丸木俊・丸木位里『原爆の図』より

ア それはここだけの話(笑)。試作段階のとき、広島でいろんな人に演じてみせたんです。そして、とても鋭いお母さんがこの子どもの絵を見て、「これは一歳児には見えない。もっと幼く見える」って言ったんです。

谷 子どもは成長すると目の位置が上がってくるんですよ。だから、この目の位置を加工して少し上してみたんです。

ア そしてこの子がちよつと大きくなったんです。見事でした。でも、すぐに《原爆の図》に対してこんなこととしてはいけない、これは本当に必要な工夫ではないかと思い、やめました。そのあとこの子の年齢のことはずっと気になっていて、いろんな人に見せたんです。そうしたら「いまは栄養が良いから成長が早いけど、当時の日本ではこの子は一歳超えていてもおかしくない」と話してくれた人がいたんです。「平和記念資料館に行つて、被爆した中学生の制服を見てご覧なさい。いまの小学三、四年生の体型ですよ」と。また別の人は、「原爆投下後、その中でも、みんなから小銭をもらえるのは赤ん坊を抱いたお母さん。戦後、そんなふうに進み込まれたお母さんたちは、なるべくぎりぎりの栄養状態にして、長く赤ん坊を抱いていられるように工夫し

ていた」と。

絵の一つのディテールに過ぎないけれど、自分たちがそれを問題にして真剣に取り組んでいるから、普段は出ないようなエピソードを、被爆した方から聞くことができた。途中、うまくいかないこともたくさんあったけれど、そのことで絵の本質の部分をを知ることができた。無駄じゃなかったと思っています。

サイボウの発見―《原爆の図》を読み直す実験

岡 もう一つ、大事な転換点だなと思っていたのが、《原爆の図》の中から細胞の絵を見つけたことだと思つたんですよ。これは絵に手を加えるということと違つて意味で、絵そのものを別のものに読み直すという実験ですね。

ア 最初から必要だと思えたのが、サイボウだった。僕らの身体、あるいは生命の源、動植物みんながすべてサイボウでできている。そのサイボウが放射性物質によってむしばまれていくことがヒバクの本質。そこを語らなければ、本当の意味での《原爆の図》の紙芝居にはならない。そこで、サイボウの絵はどこにあるんだろうと、探し始めたんです。サイボウをどうやってストーリーの中で見せる

【註2】《原爆の図》全国巡回展：1950年から約4年間にわたり北海道から鹿児島まで全国170カ所以上にて行われた巡回展のこと。累計約170万人以上もの集客をした。初期3部作(第1部・幽霊)《第2部・火》《第3部・水》の完成後に始まり、のちに《第4部・虹》《第5部・少年少女》なども加わった。1952年の占領終結まで報道規制の対象だった被爆の惨状について、いち早く人々に伝える役割を担った。

かということも試行錯誤しました。

谷 これは最終的な細胞の絵です。細胞が止まってしまわないように、動いているように見えるように、一つ一つ微調整しました。

ア 基礎知識・科学的データと、表現力、《原爆の図》にはその両方の側面がある。紙芝居として一つの普遍的な物語を作り上げるには、この両方の視点が必要だと感じました。

僕はまた全然《原爆の図》を読み取れていないーピカの絵を探して

谷 気持ちの強さを持っていないとできない作業でした。

岡 《原爆の図》の絵が強すぎるので、負けないようにしないといけませんね。

ア 強すぎるということもあるが、実は紙芝居の絵としては、ときにはとても弱いんです。瞬時に観客に届きにくい。僕はピカの絵に〈第十二部・とつろう流し〉の、強い赤い光の上に何人かの手がある、あの絵を使おうと考えていた。ピカの瞬間の影になる絵だと思ったからです。でも切り取っていくら工夫しても、紙芝居として、何が描いてあるか観客には伝わらなかった。

岡 実はピカの瞬間は、丸木夫妻も描い

ていませんね。

ア 体験していないから描かなかったのかもしれないし、描けるものでなかったのかもしれない。二人は人間を大切にしたい、多くの人間が殺されていく中で、ひとりひとりの尊厳を重視して美しさを必ず描いているから。ピカの瞬間はそれと是对極にある。ピカの瞬間をどこで見つけるかというのも長い旅でした。

谷 ほとんど直線的なものを描いていないんですね。

ア その通りです。最終的に〈第十部・署名〉の絵に出てくるお母さんの着物の柄から取ったのです。幾何学的な模様。ピカの瞬間に見えますね。丸木夫妻が意図的に潜ませていたのではないかとも思っています。

この色、黄色ですよ。稲妻のような危険な感じ。〈第十部・署名〉のこの絵では、赤ん坊がその黄色に包まれている。すごく象徴的です。この絵にピカを見つけたとき、僕はまだ全然《原爆の図》を読み取れていないと感じました。深読みすぎますかね。

岡 いや、それだけ情報量が多いからこそ、絵を読み直して、紙芝居という物語を作ることができたのだと思います。

ア 《原爆の図》の中には、まだまだいくつもの紙芝居の作品があると思っています。今回の紙芝居では、《原爆の図》

の全体の面積でいうと、三％未満しか絵を使っていませんから。軽く十作品以上潜んでいると思いますよ。

新しい、紙芝居の可能性ー紙芝居の歴史における「ちっちゃいこえ」

岡 一方、紙芝居のジャンルにとっても、この『ちっちゃいこえ』は、実験的な作品だったのではないのでしょうか。

ア ちょうど会場に童心社長の酒井京子さんがいるから、聞いてみましょう。

酒井 今回のように、もともとある絵を切り取って紙芝居にしたという作品は、私の知る限りではありません。紙芝居の歴史から考えると、一つの新しい世界を切り開いた、そう私は認識しています。もちろんこれまでも戦争や平和を描いた紙芝居もありますが、過去のことではなく現代とつながる「核」をテーマにした作品はこれが初めてです。

ア 紙芝居はある意味、すでに終わったメディアとして扱われているけれど、生身の人間が木製の舞台という装置を使って演じることは、テレビに負けない、ネットにも負けない力がある。生身の人間が声を出して演じることは、いまの時代、逆に新鮮で、そこに伝える力がある。

岡 紙芝居というメディアの面白いところ

ろは、みなさんが演じ手として参加し、そしてその場で聞き手と向かい合っている、作品を作り上げていくところ。ぜひみなさんも紙芝居を演じていただきたい、『ちっちゃいこえ』と一緒に作り上げていただけたらと思います。

ア 僕がこれから期待していることは、この紙芝居に出合った人たちが、元の絵のところへ帰ってくる、ということですよ。よく知っている人も、紙芝居を見て初めて知った人も、ぜひこの美術館に足を運んで欲しい。紙芝居によって《原爆の図》に出合い直す可能性が広がるのであれば、それほど嬉しいことはありませんね。

ひ 何かを作るといことは、いまをどうしたいかということなんだと思います。原爆が落ちたという昔の話ではなく、いまのこととして捉えてもらいたい。もし位里と俊が生きていたらこの紙芝居を「面白い」って言うと思います。二人にとってそれは褒め言葉なんです。

ア そう言われると、ますます面白く発表させたいですね。紙芝居は演じる度に違う表情を見せます。だからこれからますます演じていきたいですし、そしてみなさんにも演じてもらい、《原爆の図》の可能性を広げていけたらと思います。今日は本当にありがとうございました。

BOOK

生きものと出会う

はじめの一步

嶋田泰子

ちいさないきものずかん

谷本雄治／文
石森愛彦／絵

本体価格 各 1,400 円＋税

みつけた! 水べのいきもの



みつけた! リくのいきもの



本のタイトルを見て、どんな生きものが登場するのだろうと、わくわくしながら、目次に目を通しました。

『みつけた! リくのいきもの』の目次にはこうあります。

トカゲ、カナヘビ、ヤモリ、ヘビ、コウモリ、モグラ、ネズミ、スズメ、ハト、カラス、カモ、ツバメ、サギ、ヒヨドリ、ムクドリ、ハクチョウ。

なんだ、みんな見たことがあるものばかり! そう思いました。

ところがこの本を読んでいくうちに、見たことがあっても、知っていたわけではなかったということに気づかされました。

トカゲやカナヘビが、襲われると、自分で尻尾を切ってにげるといけれど、どこから尻尾なのか、ヘビも尻尾ってどこから?

モグラは、毎日どれほどのミミズを食べるのか、真っ暗な地面のなかで、どうやってミミズを見つけるのか。

ページをめくるたびに疑問は解決され、「なるほど!」の連発でした。

『みつけた! みずべのいきもの』に登場する生きものたちも、カエル、カメ、タニシ、ザリガニ、川エビ、サワガニ、カブトエビ、プラナリア、イモリ、サンショウウオ、メダカ、ナマズ、ドジョウ、フナ、コイ。

やはり、身近な生きものたちです。

陸で暮らすヤモリと水辺で暮らすイモリ。タニシとジャンボタニシ。どちらも名前も、かたちもそっくりだけど、赤の他人だった。などと、生き物への深い理解につながる発見がたくさんあります。

水辺に暮らす生きものたちが、どこに棲んで、どんな暮らしをしているのか、実物を見つけるヒントが書かれていて、すぐにも見に行きたくなります。

地球には人間をふくめ、想像できないほど多くの生きものが、もちつもたれつのかたちを保ちながら生きています。みんな、かけがえのない存在です。

たとえば、いつも、急ぎ足で通り過ぎる道で、ちょっと足を止め、生きものたちの気配に目や耳をとぎすますと、思いのほか多くの生きものがあることに気づきます。

まず、存在に気づくこと、そして、興味をもつことがはじめの1歩。

この本は、人が人間以外の生きものに目をむけ、同じ地球に暮らすもの同士として大切に思えるようになるための、後押しをしてくれることでしょう。

(しまだ やすこ／フリー編集者)

7月の新刊図書！

絵本・こどものひろば

丘のうえの いっぽんの木に

今森光彦／さく

本体価格 1400円＋税



1本のエノキがありました。春、目を覚ましたオオムラサキの幼虫は、エノキの幹をのぼりはじめました。エノキは鳥や昆虫、カエルなど、様々な生き物の拠り所。豊かな里山の生き物たちの姿を“切り紙”で描きます。

単行本図書

新版 科学者の目

かこさとし／文と絵

本体価格 1400円＋税



科学技術史に偉大な足跡をのこした41人の発想や着眼点のユニークさを、かこさとしが工学博士・技術者としての視点からわかりやすく描いた人物伝。巻末に科学技術史略年表、ご長女鈴木万里さんのあとがきを掲載し、待望の復刊。

読者の声

童心社のおはなしえほん
はたけのやーこ
織茂恭子／作
本体価格 1300円＋税



久しぶりに織茂恭子さんの絵本に出合えて嬉しい
です。にゃーこが生き生きしていますね。力強く
て、可愛らしくて、本当に素敵な絵本です。
(宮城県 K・H 八三歳)

松谷みよ子 赤ちゃんの本
おさじさん
松谷みよ子／ぶん
東光寺啓／え
本体価格 700円＋税



松谷みよ子さんの絵本が大好きです。食事のとき
自分でスプーンを持って食べようと興味を持ち始
めた娘のために購入しました。スプーンを持つま
ねをしたり、アーンと口をあけたりしながら喜んで
見えています。お気に入りの絵本になりました。
(兵庫県 K・E 三四歳)



イラスト／あずみ虫

保育士をしていて、以前からわらわったあそびを
保育の中に取り入れていました。新しくわらわ
った絵本と出合えて嬉しく思っています。リズム
感のあるテンポの良いことはとさし絵に、小さい
子どもたちの目はキラキラ輝いています。
(神奈川県 A・Y)



わらわったでひろがるあかちゃん絵本
ねーずみ ねーずみ
どーこ いきや？
へっこ ぷっと たれた
おせんべ やけたかな
こがようこ／構成・文
降矢なな／絵
本体価格 各950円＋税

あとがき

●7年の産みの苦しみの時を経て、紙芝居『ちっちゃいこえ』が完成しました。丸木美術館での刊行記念イベントには大会場から溢るばかりの人が集まってくださり、アーサーさんと原爆の図の力を思い知りました。体験していない者が戦争・原爆についてどう語るか難しい問題ですが、アーサーさんの言葉より見事に現代の子どもの心に届く作品になったと思います。◎

●従叔母を訪ね、両親と姉と私の4人で山形に行ってきました。20年ぶりの家族旅行です。父が杖をついていたり、母の白髪が増えていたり、私がか車の運転係だったり……いろいろ変わったな——畳の上に敷かれた布団に寝転がりながらそう思ったのですが、家族揃って川の字で就寝するのはかつてと変わらずで、可笑しさとともに懐かしさが込み上げてきました。⑩

2019年7月15日発行（毎月刊）
母のひろば 第662号
定価50円（年600円／送料とも）

発行所：童心の会
〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6
株式会社童心社内
電話：03（5976）4187
03（5976）4402（編集）
編集発行人：大熊悟
童心社のホームページ：
<https://www.doshinsha.co.jp/>
デザイン：谷口広樹

定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。
下記QRコードからもお申し込み
いただけます。見本誌（無料）と振込用
紙をお送りいたします。

見本誌に同封
されている振
込用紙で購読
料をお支払い
いただけます
と、手続き完了
となります。
購読料金は1年分600円（送料とも）。

